

小学校の適正配置

2つの案に絞り協議を継続

第四号 平成二十五年四月二十一日発行
千城台地区学校適正配置

地元代表協議会だより

発行 千城台地区学校適正配置地元代表協議会



千城台地区における学校適正配置地元代表協議会は、3月8日に17回目の協議を行い、51通りあった小学校の統合シミュレーションの中から2つの案（資料1）に絞り込み、今後の協議を継続することになりました。

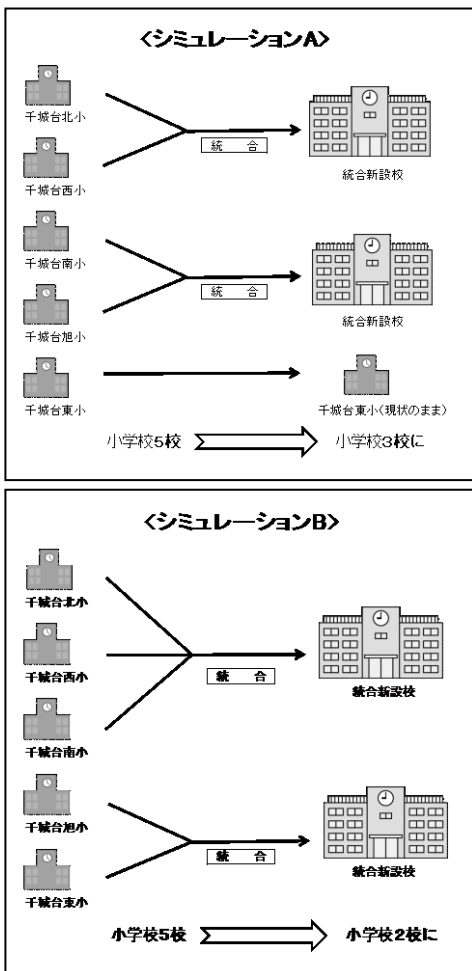
小・中学校の小規模校化した現状と改革すべき課題の対応を協議

地元代表協議会は平成22年にスタートし、千城台地区における小・中学校の小規模校化と、それに伴う課題の対応を協議しています。昨年度までに17回の協議を終えました。

その間、第11回協議会（24年3月）では「小学校の統合が必要である」ことが合意されており、この合意に基づいて第14回協議会（24年10月）では次の4点が確認されています。

- ① 平成27年4月を統合時期として協議すること。
- ② 現行学区での統合を検討すること。
- ③ 配置は子どもたちにとって、より良い教育環境の視点を重視すること。
- ④ 中学校統合は、今後の協議に関連して必要に応じて検討すること。

また、前回協議会（25年3月）では「学校規模」（資料2）と「学区の接続（飛び学区にならない）」、「資料3」の「通学経路」、「地域の声」といった観点から検討し、51通りあったシミュレーションの中から2つの案に絞り込み、平成25年度の協議を継続することとなりました。



資料1 候補となっている2シミュレーション

- ・シミュレーションA：北小と西小、南小と旭小が統合し、東小はそのまま存続。5校の小学校が3校に。
- ・シミュレーションB：北小と西小と南小の3校が統合し、旭小と東小が統合。5校の小学校が2校に。

項目	組み合わせ	シミュレーション A(小学校:5校 → 3校)												シミュレーション B(小学校:5校 → 2校)							
		北小+西小				南小+旭小				東小				北小+西小+南小				東小+旭小			
児童数(学級数)	年度	27年	28年	29年	30年	27年	28年	29年	30年	27年	28年	29年	30年	27年	28年	29年	30年	27年	28年	29年	30年
6年	6年	64(2)	57(2)	47(2)	41(2)	62(2)	65(2)	58(2)	55(2)	66(2)	49(2)	66(2)	83(3)	79(3)	81(3)	77(3)	67(2)	113(3)	90(3)	94(3)	112(3)
	5年	57(2)	47(2)	41(2)	40(2)	65(2)	58(2)	55(2)	52(2)	49(2)	66(2)	83(3)	51(2)	81(3)	77(3)	67(2)	68(2)	90(3)	94(3)	112(3)	75(2)
	4年	47(2)	41(2)	40(2)	43(2)	58(2)	55(2)	52(2)	50(2)	66(2)	83(3)	51(2)	60(2)	77(3)	67(2)	68(2)	71(2)	94(3)	112(3)	75(2)	82(3)
	3年	41(2)	40(2)	43(2)	38(1)	55(2)	52(2)	50(2)	52(2)	83(3)	51(2)	60(2)	39(2)	67(2)	68(2)	71(2)	70(2)	112(3)	75(2)	82(3)	59(2)
	2年	40(2)	43(2)	38(2)	41(2)	52(2)	50(2)	52(2)	41(2)	51(2)	60(2)	39(2)	76(3)	68(2)	71(3)	70(2)	67(2)	75(3)	82(3)	59(2)	91(3)
	1年	43(2)	38(2)	41(2)	26(1)	50(2)	52(2)	41(2)	47(2)	60(2)	39(2)	76(3)	41(2)	71(3)	70(2)	67(2)	50(2)	82(3)	59(2)	91(3)	64(2)
	計		292(12)	266(12)	250(12)	229(10)	342(12)	332(12)	308(12)	297(12)	375(13)	348(13)	375(14)	350(14)	443(16)	434(15)	420(13)	393(12)	566(18)	512(16)	513(16)

資料2 児童数・学級数の推計（平成27年度以降を推計）

- ・シミュレーションA・Bの統合パターン（北小と西小の統合など）に従って児童数及び学級数の推計値を算出。（児童数は特別支援学級を除く。）
- ・推計値は、平成24年5月の学校基本調査及び大規模開発の状況、住民基本台帳のデータを基に教育委員会が算出。

★今後の協議会の予定

平成25年度の地元代表協議会は、5月末に開催を予定しています。

最新のデータを使い、多角的な観点から『どの学校を統合するのか（どちらのシミュレーションにするのか）』を協議し、合意に至った時点で「統合に関する要望書」を千葉市教育委員会教育長に提出することになります。

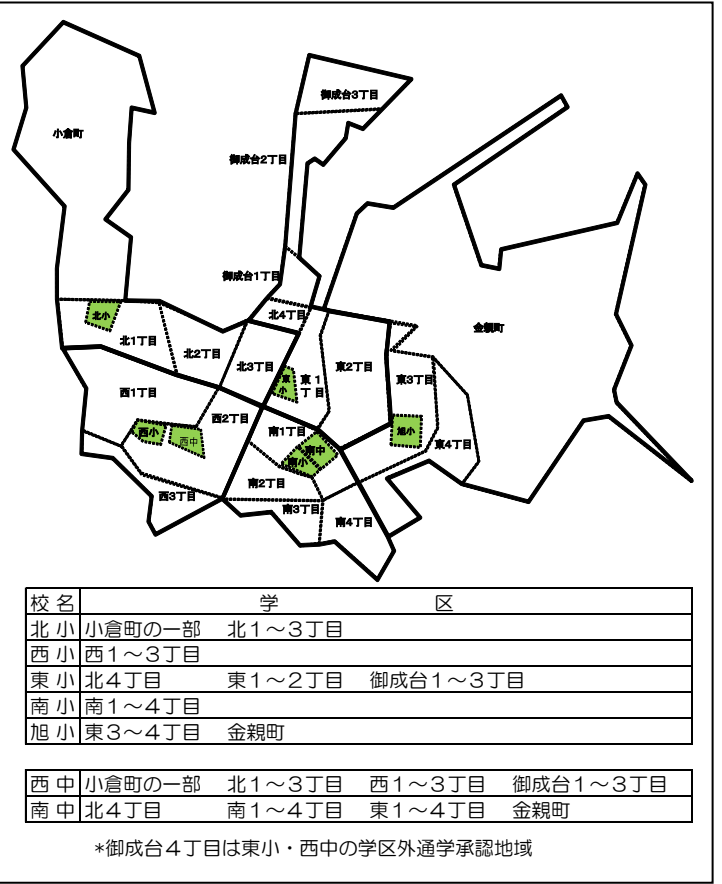
この要望書を教育委員会会議で協議・検討のうえ、市としての方針決定をしていくこととなります。統合が決定されると、次に統合に向けた準備作業に入っていきます。具体的には、児童どうしの交流や学校間での調整作業を行うため、1年半以上の期間をかけて統合に向けた準備をしていくこととなります。

したがって、協議会が目標としている平成27年4月に統合校の開校を実現するためには、25年9月までに「統合に関する要望書」の提出が必要になります。

なお、「学校跡施設」の活用要望については、統合が決定した後に協議会でも検討し、「学校跡施設に関する要望書」を千葉市長あてに提出することになります。

キーワード

- ・学校適正配置：本市では、小・中学校とも12〜24学級を適正規模の学校と考へ、子どもたちのより良い教育環境の整備と教育の質の充実に努めること。
- ・地元代表協議会：学校適正配置を協議する場。構成メンバーは町内自治会代表者、小・中学校PTA（保護者会代表）、地域の青少年育成関係団体代表者等。教育委員会企画課が事務局を担当。



資料3 千城台地区の小・中学校の配置と通学区

★千城台地区学校適正配置Q&A

Q1 何を重視して、学校の統合のシミュレーションを決定していくのですか。

学校適正配置は「子どもたちのより良い教育環境を整備する」ことを目的としています。
この目的が達成できるように、「規模（全校の学級数）」と「配置（学校の場所）」の視点で検討し、たくさんの方のシミュレーションの中から1つに決定していきます。
どのシミュレーションでも、「統合後に魅力ある学校」となるよう、小・中学校間の連携や千城台地区にある高校・大学との連携の強化が可能です。

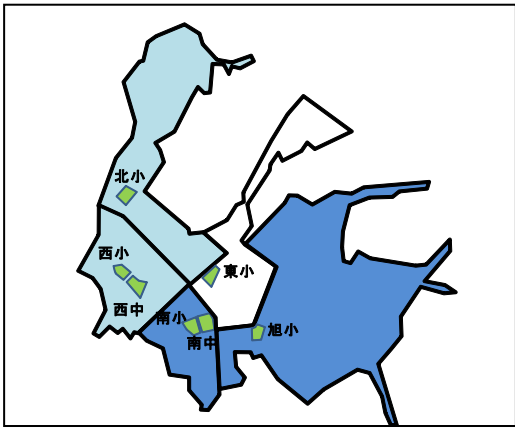
Q2 「規模」と「配置」の観点から見たとき、A・Bのシミュレーションはどのように考えられますか。

◇「規模（全校の学級数）」の観点から

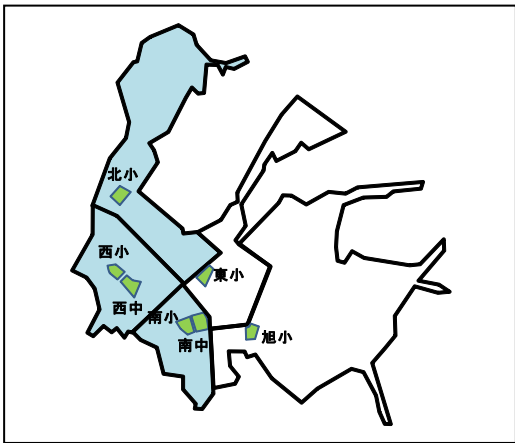
シミュレーションA・Bいずれも、統合した場合の各学校間の「規模」には大きな差はなく適切です。（表面の「資料2」参照）
シミュレーションAでは、3校とも「1学級あたりの人数（＝学級の規模）」は大部分が30人以下となりますが、平成24年度に行った児童生徒推計では、30年度に「単学級（学年1学級）」が発生することが予想され（表面の「資料2」を参照）、学級替えができなくなるという問題が生じます。
シミュレーションBでは、「各学年とも複数学級（2学級以上）」であり、学級替えが可能になります。

◇「配置（学校の場所）」の観点から

シミュレーションAでは、西中学校と南中学校はそれぞれ「別々の統合小学校の域内」に所在することとなり、現在の状況と同様のため、小学校の適正配置と切り離して中学校の統合の必要性を協議していくことができます。（資料4-1）
シミュレーションBでは、西中学校と南中学校の両校が「北小・西小・南小の統合校の域内」に所在することになってしまうため、中学校の統合も必然となります。（資料4-2）



資料4-1 シミュレーションAの場合
北小と西小の統合学区に西中があり、南小と旭小の統合学区に南中が配置されている。



資料4-2 シミュレーションBの場合
北小と西小と南小の統合学区に西中と南中の両方が配置されていて、東小と旭小の統合学区には中学校が配置されていないため、このシミュレーションでは中学校の統合が必須になる。

Q3 仮に「中学校も統合する」となった場合、統合中学校はどのくらいの学校規模になりますか。

平成27～30年度の生徒数および学級数は資料5のようになると見込まれます。
※平成24年5月1日現在。特別支援学級除く。
1クラスの人数は1年生が35人学級編成、2～3年生は38人学級編成で算出。

年度	27年度	28年度	29年度	30年度
西中学校				
3年生	107(3)	97(3)	88(3)	87(3)
2年生	97(3)	88(3)	87(3)	82(3)
1年生	88(3)	87(3)	82(3)	77(3)
合計	292(9)	272(9)	257(9)	246(9)
南中学校				
3年生	107(3)	103(3)	95(3)	100(3)
2年生	103(3)	95(3)	100(3)	85(3)
1年生	95(3)	100(3)	85(3)	95(3)
合計	305(9)	298(9)	280(9)	280(9)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度
3年生	214(6)	200(6)	183(5)	187(5)
2年生	200(6)	183(5)	187(5)	167(5)
1年生	183(6)	187(6)	167(5)	172(5)
合計	597(18)	570(17)	537(15)	526(15)

資料5 中学校における生徒数・学級数推計

Q4 今後の協議で統合校の場所はどのように検討していくのですか。

通学環境（距離や安全）や施設・設備の状況（教室数、校庭や校舎の形状等）など、「子どもたちの教育環境」の観点から検討していきます。また、地域における学校配置のバランスや、地域における活動実態等の地域コミュニティとのかかわりを考慮していきます。

Q5 「統合に関する要望書」が提出された後の想定スケジュールを教えてください。

真砂、高洲・高浜地区といった先行実施地区を参考に平成27年4月に統合校の開校とすると、概ね資料6のようなスケジュールが想定されます。
ただし、統合校の校舎の大きさや改修のボリュームによつては、仮校舎を用いない方法も考えられるため、正式には統合校の場所を決定後、検討が必要になります。

キーワード
・統合準備会 …… 統合による円滑な移行に向け、教育環境の整備、安全対策、児童生徒の交流事業、児童生徒・保護者・教職員の意見把握等について協議を行う組織。PTA(保護者会)、地元代表、校長、教頭、教務主任、教育委員会関係各課が構成メンバー。

Q6 地元代表協議会の資料や会議の記録を見るには、どうすればいいのですか。

市役所ホームページで見られます。手順『サイト内検索』に「千城台地区学校適正配置」と入力、「検索」をクリック。
または、千城台地区の小・中学校に置いてある、閲覧用の「資料および議事要旨綴り」で見られます。

◇学校適正配置に関するお問い合わせ先

千城台地区学校適正配置地元代表協議会事務局（千葉市教育委員会教育総務部企画課内）
電話(043)245-5908 Eメール kikaku.FDG@city.chiba.lg.jp

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
代表協議会	～9月 統合要望書提出	～3月 施設要望提出				
統合準備		交流活動の実施 学校間のすり合わせ				
対象校 A	通常使用	通常使用	仮校舎として使用	施設		
対象校 B	通常使用	通常使用	改修工事	移転	統合校	

資料6 平成27年4月統合を想定した場合のスケジュール例(先行地区を参照)